

★これこそアパルトヘイトだ＝ハガイ・エルアト（「ベツェレム」事務局長）

イスラエルによるガザ攻撃に国際的な非難が高まる中、「イスラエルはアパルトヘイト国家である」という批判が広がっています。イスラエル＝パレスチナ紛争を、イスラエルとパレスチナの占領地と分けてとらえるのではなく、ヨルダン川から地中海に広がるこの地域を、人口の半分を占めるユダヤ人が優位にたって他の半分を占めるパレスチナ人を分断し、差別し支配しているととらえる立場です。ある意味で紛争の根源に目を向けようというこの立場にたってイスラエルの人権団体「ベツェレム (B' Tselem)」が今年一月、「ヨルダン川から地中海までの（地域）に敷かれているユダヤ人至上主義の体制は、まさにアパルトヘイトだ」と題する報告書を発表しました。これを受けて4月には米国の人権団体「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」が、「イスラエルが占領下のパレスチナ自治区でアパルトヘイトと迫害の罪を犯している」と初めて認めました。今回のガザ攻撃についても米議会では、オカシオ・コルテス連邦下院議員が、「アパルトヘイト国家は民主主義ではない」と声を上げています。以下は、報告書をまとめたイスラエルの人権団体「ベツェレム」のハガイ・エルアト事務局長のインタビューです。5月20日に放送された米独立系メディア「デモクラシー・ナウ」のテキストから翻訳しました。（編集部）

ハガイ・エルアト＝ベツェレムは1989年に設立され、30年以上にわたって、占領地での人権侵害を分析してきました。その際私たちは、もっぱら占領地だけに焦点をあて、東エルサレムを含むヨルダン川西岸、そしてガザ地区での人権侵害を見てきました。しかしこういう分析ではもはや現実を正確にとらえることができないという結論に達しました。

これまでは、一方にグリーンライン（1987年の第三次中東戦争の結果できたイスラエルとパレスチナの境界線）の内側に民主主義の体制があり、外側にそれに付随する一時的な占領地域があるとして、二つを別々に、あたかも2つの異なる体制があるかのように分析してきました。しかし現状を、民主主義と占領地とにわけて分析する見方はもはや現実には合わない、そういう見方から解放されなければならないという結論に至ったのです。私たちは事実には忠実でなければならず、現実には目覚めなければなりません。

その大きな嘘に固執し続けると、多くのことを無視しなければならなくなります。たとえばこの地域全体にたいするイスラエルの支配が50年以上も続いているという事実。グリーンラインの反対側の占領下のヨルダン川西岸に60万人以

上のイスラエル系ユダヤ人が入植して、まるでイスラエル国内にいるかのように暮らしているという事実。さらに占領地の一部、東エルサレムが併合され、残りの西岸も事実上併合されているという事実。これらの事実を無視しなければならないのです。そういう破綻した見方に固執し続ければ、さらに多くの事実と重要な側面を無視しなければなりません。

とりわけ重要な側面とは、この地域でイスラエル政権が適用している 1 つの組織原則のことです。その原則とは、あるグループの人々（ユダヤ人）が優位にたつて別のグループの人々（パレスチナ人）を支配するというものです。この地域に住む 1400 万人のうち約半分はユダヤ人であり、残りがパレスチナ人で、2 つのグループはほぼ同じ人口をもっています。ところがこの体制は、人口動態の平等が政治権力や資源へのアクセス、あるいは保護や権利の平等に反映されないのです。

この体制の下では、イスラエルがユダヤ人には無傷の（一体として全面的な権利の保障）を与えながら、パレスチナ人は分断し、断片化することができるようになってきていることです。もしあなたが私のようなユダヤ人である場合は、この地域のどこに住んでいても、つまりイスラエル国内であろうと占領地であろうと、イスラエルは過去半世紀以上にわたって 200 以上の違法な入植地を作りましたが、このどこにいてもイスラエルという国はあなたに同等の権利と特権、保護を与えるために全力を尽くします。それがユダヤ人への扱いです。

しかし、パレスチナ人には大きな違いがあるのです。グリーンライン内（イスラエル国内）で二級市民として（住んでいる場合）、あるいは占領されて違法に併合された東エルサレムに永住者として住んでいる場合、さらに残りの西岸地区にパレスチナ市民として住んでいる場合、またガザ地区という大きな野外刑務所に住んでいる 200 万人の人たちの場合、この人たちはそれぞれまったく違った扱いになるのです。つまりイスラエル側からみると、パレスチナ人にはさまざまなカテゴリーがあり、それぞれが異なる部分的な権利、常に（イスラエル人より）少ない権利を与えられて、程度が違った抑圧の下におかれているのです。しかもこの地域にはユダヤ人とパレスチナ人が等しく扱われている場所は 1 平方インチもありません。今の体制はこのようになっており、地域で半数の人口を占めるユダヤ人が支配と覇権を握っているのです。

これら（別々にされた）点をつなぐのは私たちの義務ではないでしょうか。イスラエルによる（今回の）ガザ爆撃を見てください。この攻撃は釣り合いがとれた

ものでしょうか。イスラエルによるヨルダン川西岸の占領は、暫定的なものでしょうか。東エルサレムの近隣地域からパレスチナ人を追い出そうとするイスラエルの行動は、合法でしょうか。イスラエルがパレスチナ人を二級市民として抑圧しているのは、法の下での平等でしょうか。(ガザ攻撃は)明らかに釣り合いのとれたものではなく、(占領は)一時的なものでもなく、合法でもありません。(パレスチナ人の扱いは)平等ではありません。これらは決して複雑なことではありません。あなたの目を信じてください。あなたの良心に従ってください。これらがアパルトヘイトのように見えるのは、まさにそれがアパルトヘイトだからなのです。

エイミー・グッドマン (司会) =ガザの出来事を戦争犯罪とするあなたの批判をイスラエルのユダヤ人はどう受け止めているのでしょうか。また「まさにアパルトヘイト」だとするあなたがたの一月の報告にたいしてはどうでしょう。

ハガイ・エルアド=まったく歓迎されず、評判も良くありません。ただ、これは今に始まったことではないし、人権のためのたたかいは人気取りではありません。むしろ私は、なにより国際的に勇気づけられています。この状況はアパルトヘイトだという理解がますます主流になりつつあるからです。そしてこれはパレスチナ人の同僚たちの努力の結果です。パレスチナの学者やNGO、活動家はすでに何年もの間この点を指摘してきました。そして、ごく最近になって1月の「ベツェレム」の報告がでて、4月にはヒューマン・ライツ・ウォッチが、イスラエル当局はアパルトヘイトと迫害の罪で有罪であるという非常に広範な法的な判定を行いました。

そのおかげで、ありのままの現実を覆い隠し、嘘をつき続けることがますますできなくなっていると思います。米国の政治やメディアの主要人物が真実を大声で言い始めています。それが最後にはここ(イスラエル)に反響するだろうと思います。そして、イスラエルに住むユダヤ人は、世界がここの出来事に目覚めているという事実と同意しなければならなくなると思います。

それは本当に中心的な問題なのです。ガザで今起こっていることは、やめなければなりません。この種の爆撃、それはただちに止めなければなりません。人命を救うための最も重要な側面です。しかし、それだけでは十分ではない。責任者が責任を問われる必要があります。そうしないと、これまでと同じようなやり方でガザを攻撃することが許されてしまいます。現状維持に戻らないことが重要です。現状維持というのは誤った用語です。現状は決して静的ではなく、正義でも

ありません。現状維持とはアパルトヘイトのことです。今起こっている流血は止めなければなりません。流血は、根底にあるアパルトヘイトという現実、包括的な現実に関係しているのですから、それを終わらせなければならないのです。

(了)

(翻訳 田中靖宏)